

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 永犬丸 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

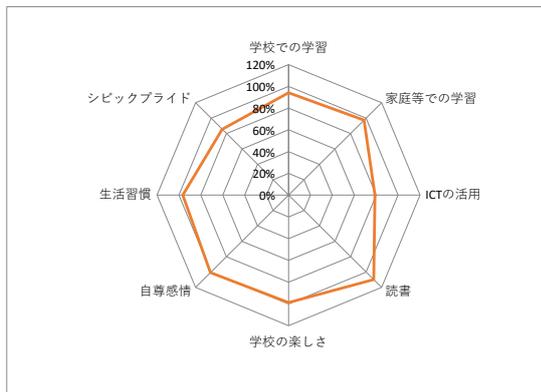
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみることや、聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみることについての力は定着してきているが、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題については、全国平均を下回っており、知識及び技能の中の、言葉の特徴や使い方にに関する事項について力をつけていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	
	努力が必要な問題	漢字を書く	
数学	全体的な傾向や特徴など	自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題については、全国平均と比べても特に秀でている。累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題については全国平均を上回っているが、正答率が低いので、データの活用について、力をつけていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	数と式	
	努力が必要な問題	データの活用	
英語	全体的な傾向や特徴など	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題についての正答率は、全国平均を大きく上回っている。道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題については、全国平均と相違がなく、今後さらに力をつけていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	読むこと	
	努力が必要な問題	書くこと	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますかの問いに対して、90%以上の生徒が肯定的な回答をしている。 「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

自分の考えがうまく伝わるよう工夫することや、学習内容をまとめることについての課題が見えたので、授業の中で計画的に交流活動を通しての集団志向の場面や、ICTを活用した学習のまとめを行う時間を確保するために、学校全体で単元計画の作成を行い、指導と評価の一体化の視点から授業改善に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習や就寝時間についてなどは、教育相談の時間を設けたり、気になる生徒については、個別に話をしたり家庭と連携を図りながら改善していく。